

著書、学術論文等の名称		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1	(著書) 人生100年時代の学び ～Nitobe style の生涯学習～ 我が国の超高齢化社会のおける健康;「健康寿命」の延伸に向けて	単	2024 年 3 月	文化生活 (新渡戸文化学園)	著書全体の概要:我が国の超高齢化社会における健康について解説し,とくに,健康寿命に関わるロコモティブシンドローム,メタボリックシンドロームについて説明した。 (総ページ数:35頁) (著書全体の著者名:藪健史) 担当部分の概要:すべての部分を文責。 (担当ページ:pp.3～4)
2	研究テーマ 食物栄養学科研究室紹介 強力な抗酸化物質セレノネインの実用化	単	2024 年 3 月	文化生活 (新渡戸文化学園)	著書全体の概要:本研究室の取り組んでいる研究内容について解説した。 (総ページ数:35頁) (著書全体の著者名:藪健史) 担当部分の概要:すべての部分を文責。 (担当ページ:pp.25)
3	水族育成学入門 第3章 魚類の発生 (間野伸宏・鈴木伸洋共編著)	単	2020 年 5 月	成山堂	著書全体の概要:本書は,魚類の初期発生過程をゼブラフィッシュやメダカの例について解説した。 (総ページ数:285 頁) (著書全体の著者名:藪健史) 担当部分の概要:すべての部分を文責。 (担当ページ:pp.31～42)
1	(学術雑誌)原著論文 Characterization of fish-specific IFN γ -related binding with a unique receptor complex and signaling through a novel pathway. 査読あり	共	2024 年 1 月	FEBS Open Bio	論文全体の概要:本書は,魚類ギンブナのインターフェロン γ の類似したリガンド IFN γ related 分子のシグナリング経路を特定し,リガンドと会合する受容体遺伝子を突き止めた。当該論文のページ数:13頁) (当該論文の著者名:Shibasaki Yasuhiro, <u>Yabu Takeshi</u> , Shiba Hajime, Moritomo Tadaaki, Mano Nobuhiro, Nakanishi Teruyuki.) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 pp.532～544

所属・氏名 (健康科学学部医療栄養学科氏名：藪健史)	2	カイコにおける Fas リガンド様タンパク質の機能解析. 《筆頭論文》 査読あり	共	2023 年 1 月	新渡戸文化短期大学学術雑誌	論文全体の概要：本研究は、カイコ Fas リガンドのリコンビナントタンパク質の精製し、本リガンドの細胞死誘導能を調べて、ED50 値を明らかにした。本リガンドは、幼虫期から蛹期へと変態する過程で、デスシグナルを活用して組織崩壊の誘発に生理的な機能を果たすことが明らかにした。当該論文のページ数：11 頁) (当該論文の著者名：藪健史, 柳田晃佑, 司馬肇) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 pp.1～11
	3	Alteration of hemoglobin β gene expression in mucosal tissues of Japanese flounder, <i>Paralichthys olivaceus</i> , in response to heat stress, <i>Edwardsiella piscicida</i> infection, and immunostimulants administration. 査読あり	共	2022 年 1 月	<i>Fish Shellfish Immunol. Reports</i>	論文全体の概要：本研究は、熱ストレス、細菌および免疫賦活剤投与より粘液組織のヘモグロビン β の遺伝子発現が変化することを見出した。 当該論文のページ数：8 頁) (当該論文の著者名：Misato Mori, Yasuhiro Shibasaki, Aki Namba, Takeshi Yabu , Noriko Wada, Hajime Shiba, Hiroshi Anzai, Hajime Shiba, Nobuhiro Mano.) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 pp.100049
	4	Enhancement of immune proteins expression in skin mucus of Japanese flounder <i>Paralichthys olivaceus</i> upon feeding a diet supplemented with high concentration of ascorbic acid. 査読あり	共	2021 年 4 月	<i>Fish Shellfish Immunol</i>	論文全体の概要：本研究は、高濃度アスコルビン酸をヒラメへ給餌し、皮膚粘液における生体防御関連分子の発現を二次元電気泳動で調べた。その結果、皮膚粘液で生体防御関連分子が、著しく発現が増強することが明らかとなった。本研究より、生体防御を強化することが可能なヒラメ試料の開発に成功した。 当該論文のページ数：8 頁) (当該論文の著者名：Misato Mori, Tasuku Ito, Ryota Washio, Yasuhiro Shibasaki, Aki Namba, Takeshi Yabu , Dai Iwasaki, Noriko Wada, Hiroshi Anzai, Hajime Shiba, Teruyuki Nakanishi, Nobuhiro. Mano.) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 pp.20～27

令和 6 年 4 月 12 日現在